

The Episode of Oil Massage① “生きた屍” が一夜で復活！

体質研究所主宰 松原秀樹

今から 21 年前。当時 24 歳だった私は、長年の不自然な食生活とハードな肉体労働で、完全に生気を失って、まるで“生きた屍”の如き身体になっていた。

身体がいつもだるくて重い。真夏でもジャンパーが必要なほど寒くて仕方がない。体温は 35℃台前半。血圧も上が 80・下が 50 を切る状態で、献血に行ったらひどい貧血と言われて、「一体何を食べてるんだ！」と怒られる始末。

背骨全体が常に痛くて、腰掛けていることさえ辛かった。朝起きるときは、体中の骨がまるで老朽化したコンクリートのように軋む音がして、起き上がるのに 15 分もかかった。首は鉄骨のように硬くて回らない。左のヒザは、歩いている最中に突然力が抜けて、カクンと折れてしまうことが頻繁にあった。そして夜寝るときには時々、心臓の辺りに激痛（肋間神経痛）が走った。

休日には、腕のいいマッサージ師や整体師に施術してもらったが、1 日か 2 日で元の木阿弥。ひどい時は、施術して 3 時間後には元通り！

鼻と喉はいつも風邪を引いたように慢性炎症状態で、耳鳴りもしょっちゅうしていた。

胃腸はほとんど機能停止状態で、まったく食欲がなく無理して食べていた。ある日ビタミン剤を飲んで出かけたなら、それも吐いてしまった。

「このままでは、卒業する前に死んでしまうかも・・・？」と思った。

そんな時、同級生の友人が、一本のマッサージオイルをプレゼントしてくれた。まさかこのオイルが“奇跡”を起こすなんて、そのときは思いもしなかった。

せっかくだいたいの、「風呂もないのに、オイルなんか付けたらベタベタになって困るだろう」と思って、しばらく使わずに食器棚に飾っておいた。

しかし 12 月のある晩、あまりに辛いので、夜仕事から帰ってから、小さなガスヒーターの前で恐る恐るオイルを手にとって、身体に擦りつけてみた。すると驚いたことに、オイルがあっという間に皮膚に吸収されてしまった！そして予想に反して、かなり気持ちがいい！それで夢中になって 30 分、身体中に手が届かぎりたつぷりオイルを擦りこんだ。

そしてふとんに入って寝た。まるで身体に“火が灯った”ように、身体の芯がポカポカとしてきて、なんともいえない快感に浸って眠った。

1 時間ほどして、全身がぐしょ濡れになって目が覚めた。パジャマから布団まで大汗をかいてグッショリだった。仕方なく着替えて、布団を取り替えて、また寝た。

驚いたのは翌朝！ ナント！昨日までの身体の重さも痛みもすべてなくなっていた！

たった一晩で、これだけ劇的に身体が軽くなるなんて・・・奇跡だ！

もう嬉しくて、駅までスキップしていった。学校の友人も私の激変ぶりに驚いていた。

でも、オイルには全然興味がなさそうだった。

今まで様々な治療法を試してきたが、これほど劇的な効果を得られたことはなかった。

こんなに効く方法が、なぜ知られていないのだろう？

効果は明らかに“オイルパワー”によるもので、単に“汗をかいたせい”ではない。

その頃は、ラドン温浴施設に勤めていたので、毎日ラドン温泉と遠外線サウナで、たっぷり発汗していたのである。しかしサウナでいくら発汗しても、これほど劇的に変化したことはない。**サウナで出る汗とオイルマッサージで出る汗は、違うのだ！**

一夜で蘇った身体も、“仕事をすればまた辛くなる”のは変わらなかった。そこで、辛くなるたびにオイルを擦りこんだ。そうして1年半、自分の身体にマッサージし続けて、どうにか無事に卒業できた。

26歳という若さで、体力もお金もなく、治し方も分からず、知名度どころか知人すらいない多摩（聖蹟桜ヶ丘）で、無謀にも開業した。オイルだけを頼りに…。